
定期券

りす君

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

定期券

【Nコード】

N2272B

【作者名】

りす君

【あらすじ】

ある時、お互いに他人である3人が、それぞれ別の場所で定期券を拾った。その定期券は過去に怨みを持つ呪いの定期券だった…

（前書き）

この小説を読んで下さりありがとうございます。

ある少年は、道端で一枚の定期券を拾った。名前も書いてなく、この会社名のものなのかも書いて無かった。ただ、裏に、

“これは各会社路線全線でご利用頂けます。”

と、記してある。定期券には使用者の名前が書いて無かったので早速使ってみる事にした。

少年は、その定期券を使つて改札を通つた後、列車に乗車した。

ところが、少年を乗せた列車は、急カーブに差し掛かった所で制限速度を遥かにスピードオーバーで脱線し横転、大惨事となつた。少年は即死したが、少年が手に持っていた定期券はその時の事故衝撃により、何処かへ吹っ飛んだ…。

またある日の午後、少年と別の所で年老いた老人が道端で傷が付着した定期券を拾つた。老人は丁度、昔の戦友達と会うために電車を乗るため老人は良いものを拾つたと満足気に駅へ向かった。

…老人を乗せた列車は突然、暴走し前を走っていた列車に激突、更に激突したため速度を落とし、後ろから来た特急列車に突つ込まれ、炎上…老人は焼死した。定期券はいつの間にか消失していた…。

また別の場所でその定期券を拾つた女子高生は、その後家に帰ろうと駅に着いた直後、自分の意思とは別に勝手に身体が動きだしその駅を通過する急行列車にプラットフォームから飛び込み、見るも無惨な轢死体となつた。その定期券はまたその場から消えていた…。

この定期券…昔、駅で倒れていた老人を助けて少しばかり会社の出勤時刻に遅れ、上司にクビを言いわたされたので、そんな理由でクビだなんて不条理だと不服を会社側に申し立てたが取り合ってくれず途方に暮れ、最期に世間の不条理さを怨みつつ、猛スピードで駅を通過する列車に自ら飛び込んで自殺した真面目な会社員のモノだったのだ。

あなたも、道端で定期券を見つけたら拾わないようにしましょう。
これを守らないとあなたも…

ノロイコロサレマスヨ？

（後書き）

恐れ入りますが、読み終わりましたらこの小説の評価をして下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2272b/>

定期券

2010年11月10日03時14分発行